福岡市立ヨットハーバーにおける利用者の意識調査

九州共立大学　工学部　学生員　○鮫島　幸一
九州共立大学　工学部　正　員　　片山　正敏

1．はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、平成５年度（北九州市の新門司マリーナ）、平成６年度（福岡市のＭＡＲＩＮＯＡ）、平成７年度（福岡市のホテル海の中道）に引き続き、福岡市の福岡市立ヨットハーバーにおいて、平成８年７月～８月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、その利用者の意識の概要について報告する。なお、福岡市立ヨットハーバーの概要、利用状況などについては参考文献を参照されたい。

2．アンケート調査の概要

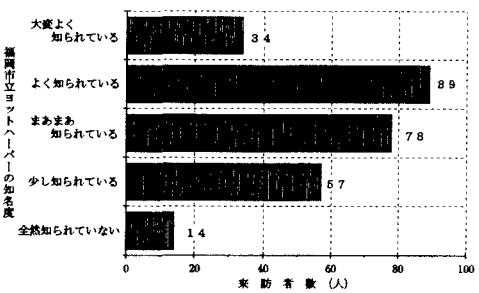
表－１　アンケート調査の概要

調査対象	福岡市立ヨットハーバーへの来訪者全員
調査期間	平成８年７月～８月の１１日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
回収人数	２８６人
有効回収人数（率）	２７２人（９５．１％）

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

3．施設利用前の意識

（１）福岡市立ヨットハーバーの知名度



図－１　福岡市立ヨットハーバーの知名度

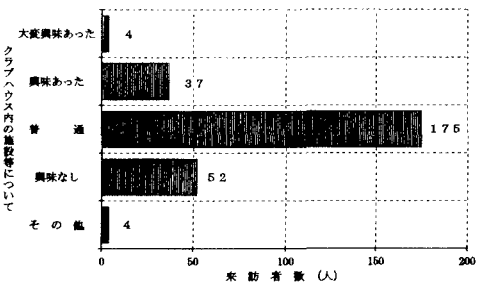
知名度は来訪者の約３３％が「よく知られている」約１３％が「大変よく知られている」となっている。「全然知られてない」と回答した人は、約５％と非常に少なく全体的に知名度は高いと思われる。（図－１参照）

（２）福岡市立ヨットハーバーを知った方法

「友人・知人」から知った人がもっとも多く、続いて「偶然知った」となっている。

（３）クラブハウス内の施設等についての意識

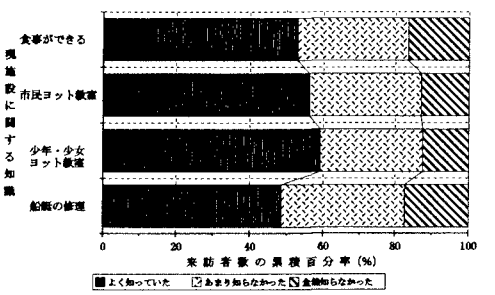
「普通」と回答した人が約６４％と圧倒的に多く、続いて「興味なし」と回答した人が約１９％となっている。（図－２参照）



図－２　クラブハウス内の施設等についての意識

（４）ヨットハーバーの現施設に関する知識

「少年・少女ヨット教室」を約５９％がよく知っていたと回答しており、続いて「市民ヨット教室」を約５６％がよく知っていたと回答している。ヨットハーバーとしての機能は、約半数の人がよく知っていたことがわかる。（図－３参照）

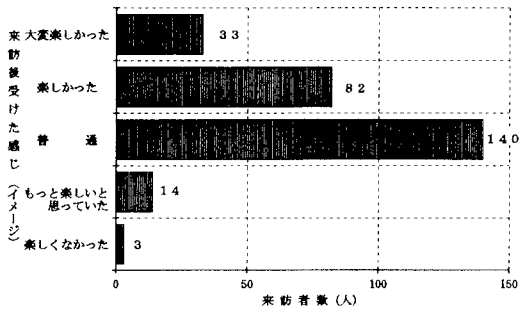


図－３　ヨットハーバーの現施設に関する知識

4．施設利用後の意識

（1）来訪後受けた感じ（イメージ）

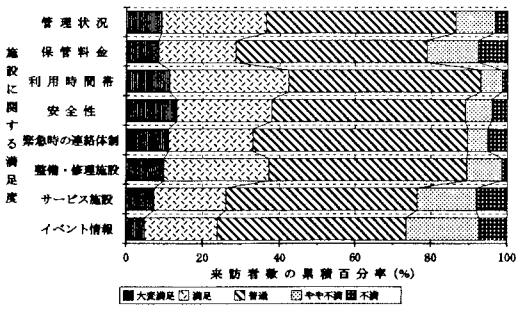
来訪者の約５２％が「普通」と回答し、約３０％が「楽しかった」と回答している。「もっと楽しいと思っていた」・「楽しくなかった」と回答した人は非常に少なく、大多数の人が施設を来訪して、満足感を得ているようである。(図－４参照)



図－４　来訪後受けた感じ（イメージ）

（2）施設に関する満足度

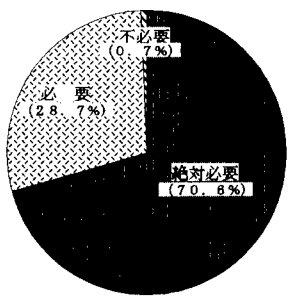
「やや不満」・「不満」と回答した人は少数であり、比較的に満足度は高いといえる。（図－５参照）



図－５　施設に関する満足度

（3）公共施設としてのヨットハーバーの必要性

ヨットハーバーの必要性は、「絶対必要」と回答した人が約７１％と圧倒的に多い。また「不必要」と回答した人は約０．７％と非常に少なく、大多数の人がヨットハーバーを公共施設として必要だと感じていることがわかる。（図－６参照）

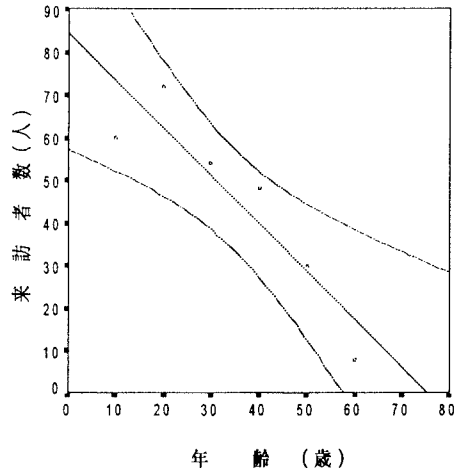


図－６　公共施設としてのヨットハーバーの必要性

5．単回帰分析結果

エス・ピー・エス・エス㈱にて開発されたパソコン用統計解析システムを用いて単回帰分析を行った。

福岡市立ヨットハーバーにおける来訪者の年齢と来訪者数について単回帰分析を行った結果、「信頼度９５％で有意」との検定結果が得られ、若者に人気のある施設であることが確認された。図－７に出力結果を示す。



相関係数=-0.912335　　Y=A+BX

X=来訪者の年齢　　Y=来訪者数

A=84.53333　　B=-1.120000

図－７　単回帰分析の出力例

6．おわりに

福岡市立ヨットハーバーにおける利用者の意識についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画のためのデータが得られた。今回の調査に御協力・御助言をいただいた福岡市立ヨットハーバー、九州共立大学の関係者に深く感謝いたします。

参考文献

鈴木康晃、片山正敏：福岡市立ヨットハーバーにおける利用状況調査、平成８年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集、平成９年３月